



南部
地域

開催地／県立木本高等学校
木本高校・紀南高校・伊勢高校・東紀州くろしる学園



5分間の作戦タイムでは
グループの仲間で
意見を出し合いました



貿易ゲーム

各グループ(国家)に紙(資源)や道具(技術)が不平等に与えられ、できるだけ多くの富を築くことを競う貿易のシミュレーション・ゲームです。不平等な条件下で、豊かなグループはより豊かに、貧しいグループはより貧しくなり、経済格差が拡大していく仕組みを体験的、共感的に理解することができます。



アイデアを結集。
ピンポイントで
高くなっていきます



資源配分

各グループは紙と道具を与えられ、できるだけたくさんのお金を稼ぐために製品を作ることに取り組みますが、与えられた「資源」と「技術」には大きな格差があります。



国づくり

作った製品を売ってお金に換え、食糧や住居、教育、医療、交通機関など、国のカタチを整えていきます。



閉会式で挨拶を述べる三重県青少年赤十字高等学校連絡協議会会長の大藤 久美子先生。



三重県立鈴鹿青少年センターと木本高校の会場に分かれた生徒たちがモニター越しに交流を深める場面も。

令和3年度 三重県青少年赤十字 リーダーシップ・チャレンジ研修会

令和3年8月1日 高校生

8月1日(日)、北部地域・南部地域に分かれ、8校計57名の高校生たちが参加して開催された「三重県青少年赤十字 リーダーシップ・チャレンジ研修会」。コロナ禍の中、感染対策に配慮した上で、各校の生徒たちが顔を合わせ、リーダーとしての態度とスキルを身につけながら交流を深める貴重な機会となりました。



北部
地域

開催地／三重県立鈴鹿青少年センター
四日市四郷高校・白子高校・飯野高校・久居農林高校

体験を通じて
気づきを得られる
貴重な1日に

今年は新型コロナウイルスの影響で
小学校・中学校の部の青少年赤十字リ
ーダーシップ・トレーニングセンター
(通称・トレセン)は中止となり、高
校生を対象にした青少年赤十字リ
ーダーシップ・チャレンジ研修会を日帰りで
開催。北部の高校は鈴鹿青少年セ
ンター、南部の高校は県立木本高校に集
まり、両会場をネットで繋いでの進
行となりました。

生徒たちが顔を合わせて交流する機
会を持つのは約1年ぶり。両会場に集
まった57人の参加者たちは赤十字の精
神や青少年赤十字の活動内容について
学んだ後、ゲーム形式での自己紹介や
ペーパータワー作りなどの活動でコミ
ュニケーションを図りました。

昼食はハイゼックス包装食を使った
非常食炊き出し体験で作ったご飯でカ
レーライス。包装食の袋がそのままお
皿の代わりになるなど、災害時の便利
な工夫に興味を持った生徒たちも多
く見られました。

午後からは国際親善・理解を深める
「貿易ゲーム」を実施。各グループが
国家となり、あらかじめ与えられた紙
(資源)やハサミなどの道具(技術)
を使って自分の国を豊かにしていくゲ
ームですが、国ごとに大きな格差が生
じていきます。そうした中でどのよう
な行動を取るべきか。参加した生徒た
ちからは、世界の国々で格差が開く理
由を理解できたという声や、それぞれの
国が自国の利益を考えないといけな
いため、ひと口に国際援助と言っても
簡単なことではないと実感できたとい
う感想が寄せられました。

続いてのワークショップでは「今、
わたしたちにできること」をテーマに
自らの思いを書き連ね、その内容をも
とに先生や先輩方の助言に熱心に耳を
傾ける姿も。各自が有意義な時間を過
ごし、今後の活動への意識を高めるこ
とのできた1日となりました。

午後は国際親善・理解を深める
「貿易ゲーム」を実施。各グループが
国家となり、あらかじめ与えられた紙
(資源)やハサミなどの道具(技術)
を使って自分の国を豊かにしていくゲ
ームですが、国ごとに大きな格差が生
じていきます。そうした中でどのよう
な行動を取るべきか。参加した生徒た
ちからは、世界の国々で格差が開く理
由を理解できたという声や、それぞれの
国が自国の利益を考えないといけな
いため、ひと口に国際援助と言っても
簡単なことではないと実感できたとい
う感想が寄せられました。

午後は国際親善・理解を深める
「貿易ゲーム」を実施。各グループが
国家となり、あらかじめ与えられた紙
(資源)やハサミなどの道具(技術)
を使って自分の国を豊かにしていくゲ
ームですが、国ごとに大きな格差が生
じていきます。そうした中でどのよう
な行動を取るべきか。参加した生徒た
ちからは、世界の国々で格差が開く理
由を理解できたという声や、それぞれの
国が自国の利益を考えないといけな
いため、ひと口に国際援助と言っても
簡単なことではないと実感できたとい
う感想が寄せられました。

ペーパータワー作り



作戦を立て、実行に移す過程の中で
チームワークが高まりました

アイスブレイキング

南部は「共通点探しゲーム」。答え
が一致するような質問を作ってグル
ープの仲間に答えてもらい、全員の
答えが一致すれば成功です。北部
は作戦会議を経ての「ペーパー
タワー作り」。どちらもグループの
メンバー同士のコミュニケーション
を高めることができました。

共通点探しゲーム



共通点を探すことを通じて
おたがいの理解が深まります



振り返り

国・地域間の格差の解決に向け
て、国際協力や一人ひとりの行動
の在り方について感じたことや
意見を交わしました。どうし
て援助が広がらずに格差が拡大
してしまうのか、各自が自身の体
験を通じて気づきを得られる機
会となりました。



国際協力

グループ(国)ごとの格差の大
きさを目にして、「JRCの一員
として行動を考えてほしい」
という先生からの言葉を思い
返す参加者たち。先進国から
の援助を受けて、発展途上国
のグループも物資やサービスを
充実させていきます。



JRC態度目標

気づき、考え、実行する

ボランティア支援

ゲームの途中で発展途
上国にはボランティア団
体からの支援が届けられ
ましたが、本当に必要な
物が届かないケースもあ
りました。



非常食炊き出し体験

災害現場や避難場所
で温かいご飯を作
ることができる「ハイ
ゼックス包装食」(炊飯
袋)を使って、非常食
の炊き出しを体験。出
来上がったご飯にカ
レーをかけてお昼ご
飯の時間になりました。



リーダー引き継ぎ



令和2年度のリーダーから次年度のリーダーへ青少年
赤十字旗が引き継がれました。

支援を受けることの「さみしさ」を感じて

飯野高校 石崎 里歩
お昼ごはんの包装食袋でつくる非常食のごはんは、
いつも食べているごはんとはほとんど違いがなく
てびっくりしました。包装食袋の袋がそのまま災害時
のときにはお皿の代わりになると知った時は、本当に
色々なことが考えられているんだと思いました。
「貿易ゲーム」では私のグループには鉛筆1本、紙1枚、
小さいクリップ1個しか封筒に入っており、思わず先
生に封筒の中身をこれで全部なのかと聞きに行っ
てしまいました。使えるものが少なくてなにも出来な
く、辛かったです。定規や紙を他のグループから借り
たり、もらったり出来ても肝心の「はさみ」がなかつた
ので、商品が作れませんでした。ボランティア団体から
支援が必要としても全然使えない物資で困ってしまい、支
援を必要としている相手が本当に必要としている物を
間違えないことの大切さがとても分かりました。最終
的に他のグループからクリップの支援があり、国を豊
かにすることが出来ましたが、何故だかさみしが悪
かったです。他のグループのすねをかじっているよう
な気持ちになったので切なかったです。研修に参加し
たことで、このような体験をしないと感じない気持ち
や経験をたくさん得ることが出来ました。

役職名	名前	所属所名
役員	青木利幸	津市立西橋内中学校
会長	宮村 昇	伊勢市立明倫小学校
副会長	川田佳也	松阪市立三雲中学校
副会長	大藤久美子	三重県立白子高等学校
理事	森本敏子	杜の街ゆたか園
理事	久保田智子	津市立川合幼稚園
理事	三輪辰男	津市立橋北中学校
理事	小川晃範	鈴鹿市立長太小学校
理事	川崎奈保美	熊野市立木本小学校
理事	伊達智博	松阪市立山室山小学校
理事	後藤勝弘	津市立南が丘中学校
理事	村瀬卓也	津市立豊里中学校
理事	内山 智	三重県立木本高等学校
理事	赤沼寛子	三重県立白子高等学校
理事	遠藤雅典	三重県立白子高等学校
顧問	松田克己	三重県立白子高等学校
顧問	東谷和久	三重県立白子高等学校
顧問	庄山昭子	三重県立白子高等学校
顧問	三井理江	三重県立白子高等学校
顧問	井上珠美	三重県立白子高等学校
顧問	藤井理江	三重県立白子高等学校
顧問	布本 肇	三重県立白子高等学校
顧問	金森晃生	三重県立白子高等学校
顧問	森 昌彦	津市教育委員会教育長

令和3年度
三重県青少年赤十字
指導者協議会
役員紹介